

(別紙3)

【三朝町】校務 DX 計画

令和6年12月26日付6初情教第10号「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストに基づく自己点検のフォローアップの実施結果(速報値)」について(通知)」(以下「実施結果」という。)における自治体別達成状況で本町は県内でも高い数値となっている。(鳥取県平均:402.3点、本町678.0点)

本町においてはすでにペーパーレス化を推進し、簡易的な情報の共有及び提供はほぼオンラインとなっている。

現時点で整備しているツールの活用を教職員が最大限に活用する努力をしていることが要因でもあるが、今後は下記の点について更なる活用を推進し、子どもたちの活用能力の向上及び不必要な手入力作業の抽出と改善を始めとした職務等の効率化による負担の軽減に努める。

1 紙で発行していた文書等についてのオンライン化

アンケートや保護者への簡易な案内文書、職員会議等における資料等は既にオンライン機能を活用しているため、今後は子どもたちが作成したデータ等のクラウドを活用した共有化や、共同編集機能を活用した作業・学習をさらに推進する。FAXや押印は原則廃止とする方針。

2 事情により授業に参加できない子どもたちへの配慮、不登校の未然防止

オンライン会議システムを活用した授業配信を今後は推進する。また、不登校要因の未然防止のためにその因子についてオンラインを活用し、効率的かつ効果的に集約・傾向判断・解決に結びつけるツールを導入する。

3 海外(特に姉妹校)を始めとする、町外とのつながりの強化(教育用で「Zoom」アカウントを取得済)

教育委員会の許可のもと、学校でオンライン会議システムの活用が可能となったため、既に運用は始めているが、異文化を学ぶ機会、企業との交流や学びの場、外部人材からの研修機会としてさらに活用する。

4 クラウド活用のメリットの教職員への理解を促進。既存のものを活かしながらDXを推進

便利な多くのツールがあるが、基本的には既存の整備ツールを利用することで、課題の多くは改善が可能。重要なのは多くのツールを活用することではなく、ツールの基礎をしっかりと理解し、発展的な活用に結び付けることであるため、基礎知識とその運用方法への気づきの力を養うため、ICT支援員や校内情報機器担当と協力しながら、特にICT活用が苦手な教職員を対象に活用能力向上研修を実施する。

5 統合型校務支援システムの導入について

県主導により整備された校務支援システムの更新と併せて、令和9年度稼働を目指している。

なお、これまでも教育委員会と学校のICT担当による担当者間協議を少なくとも各学期に1度実施しており、そこで報告される課題や意見等を踏まえながら、より良いICT活用に向けた対策を図ることとしている。